

令和 8 年産大麦情報 第 1 号

～ ほ場準備から播種まで ～

令和 7 年 9 月 末 日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

R 7 産大麦の収量・品質について

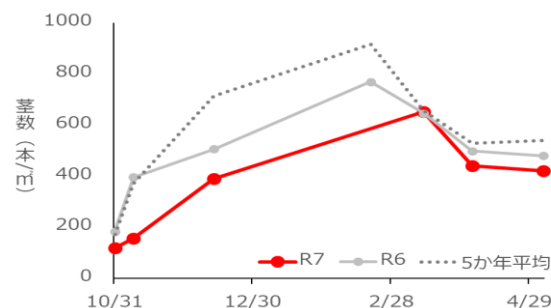


図 R7年産茎数の推移（生育観測田）

出穂期	4/13（R6：4/10）
成熟期	5/28（R6：5/30）

表 収量・品質調査結果（生育観測田）

	2.4mm精麦重 Kg/10a	千粒重 g	硬質粒 %
R7	512	36.4	9.5
R6	399	34.3	5.0

生育	収量
越冬前茎数、越冬後茎数が少なく、生育量不足ほ場では追肥を施用した。穂数は目標穂数を概ね確保した。	収量は粒張りが良く、2.4mm精麦重が前年より多い。硬質粒は少なく、品質も良好となった。

目標単収500kgに向けた管理ポイント

麦は湿害・滞水を嫌います。排水対策を徹底し、**乾きやすいほ場づくり**をすることで苗立ちと初期生育を確保し、増収を目指しましょう！

- ① 湿害回避・排水対策
- ② pH矯正と適正な施肥
- ③ 適切な播種作業・・・播種適期は10月中旬



ほ場準備

ほ場の排水性を高めると碎土率が向上し、苗立ちや除草効果が高まる！

- 団地化することで隣接する水田を減らし、水の侵入を防ぐ。
- 適期に播種作業ができるよう、水稻収穫後すみやかに額縁排水溝を施工する。
- 明渠は3～5m間隔で縦方向に数本施工し、額縁排水溝に連結させる。
- 弾丸暗渠やサブソイラ等を施工し、土壌の排水性を高める。※裏面に施工イメージ図
- 排水溝を点検・修繕する。

[失敗事例]
排水溝の施工時に逆勾配になると排水ができない。



土 壌 p H 矯 正 ・ 播 種

●土壌改良資材の散布

- ・ **大麦に適した土壌pHは6.5以上。**
- ・ 耕起前に「粒状苦土石灰」、「BB新転作エース」、「カキ鉄エース」のいずれかを施用しましょう。
- ※水稻作付後の土壌pHは5.5程度。

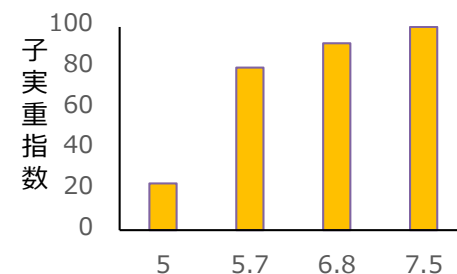


図 土壌pHと大麦の収量
(農業技術体系より抜粋)

項目	肥料名	施用時期	10a当たり施用量
pH矯正	粒状苦土石灰	耕起前	1 0 0
pH矯正 土壌改良	カキ鉄エース		1 0 0
	BB新転作エース		8 0

●種子消毒・・・対象病害 裸黒穂病

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
ベンレートTコート	乾燥種子量の0.5%粉衣 (7kg当たり35g)	は種前	1回

●播種時期と播種量

- ・ **播種時期：10月10～20日** ※播種作業は土壌が乾いてから行う！
- ・ **播種量：7kg/10a** ※10月下旬以降の播種は**1kg程増**やす。

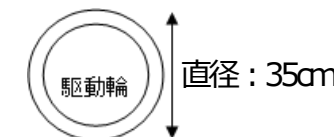
播種方法	条 間	播種深さ	播 種 量	畦 幅
条 播	25～30cm	3cm	7kg/10a	3～5m (水はけの悪い圃場は3m以下)

【播種前の耕起作業】

碎土率が劣ると苗立ちや除草効果が低下するので、**トラクターは低速走行でロータリー回転数を上げて作業する。**

【播種機の播種量調整※ドリル播種の場合】

播種量	条 間	1m当たりの種子繰り出し量
7kg/10a	30cm	2.1g（約60粒）
	28cm	2.0g（約57粒）
	26cm	1.8g（約51粒）



直径：35cmの場合
 $0.35 \times 3.14 \times 5 \text{回転} = 5.50\text{m}$
1m当たり種子量
= 落下種子量 ÷ 5.50m

- ・ 播種機を少し持ち上げ、落下部に皿などをあてて駆動輪を5回程度、回転させる。
- ・ 駆動輪の直径を測り、円周率（3.14）と回転させた数をかけあわせて駆動距離を算出する。
- ・ 落下した種子量を、駆動距離で割れば、1m当たりの播種量が求められる。
- ・ 作業時は駆動輪のスリップ等による誤差があるので、種子の消費量を見て修正する。

Next 裏面

施肥（基肥－発肥料体系）

※生育に応じて越冬後に追肥が必要！詳細は2月の営農だより

肥料名	施用時期	10当たり施用量	備考
BB大麦一発N35 (35－5－4)	播種時	40 (N:14kg)	地力の低いほ場での増肥は 43kg(N:15kg)を上限とする。

雑草防除（除草剤）

散布直後に雨が予想される場合は、薬害回避のため降雨後に散布する。

剤型	薬 剤 名	使用時期	使用量 (10a当たり)	希釈 水量	適用雑草
粒	トレファノサイド 粒剤2.5	は種後出芽前～ 3葉期 (雑草発生前～ 雑草発生始期)	4～5 kg	－	一年生雑草 (アブラナ科等は 除く) 一年生イネ科雑草
液	トレファノサイド 乳剤		200～300 ml	100 ℓ	
粒	クリアターン 細粒剤F	は種直後 (雑草発生前)	4～5 kg	－	一年生雑草 (雑草発生前)
液	クリアターン乳剤		500～700 ml	70～ 100 ℓ	
粒	リベレーターG	は種後～ 麦2葉期	4～5 kg	－	一年生雑草 (雑草発生前～ イネ科雑草 1葉期まで)
液	リベレーター フロアブル	は種後～ 麦3葉期	60～80 ml	100 ℓ	

- ・除草効果を高めるため、耕起時の碎土はできるだけ細かくしておく。
- ・播種直後の土が湿った状態で散布すると効果が高い。
- ・液剤散布では極端に土壌が乾燥している場合、希釈水量を多めにする。



排水溝の補修

排水溝の点検・修繕の実施

播種作業や降雨後は、排水溝が埋まり、停滞水となる場合がある。確実にほ場外へ排水できるようにしましょう！

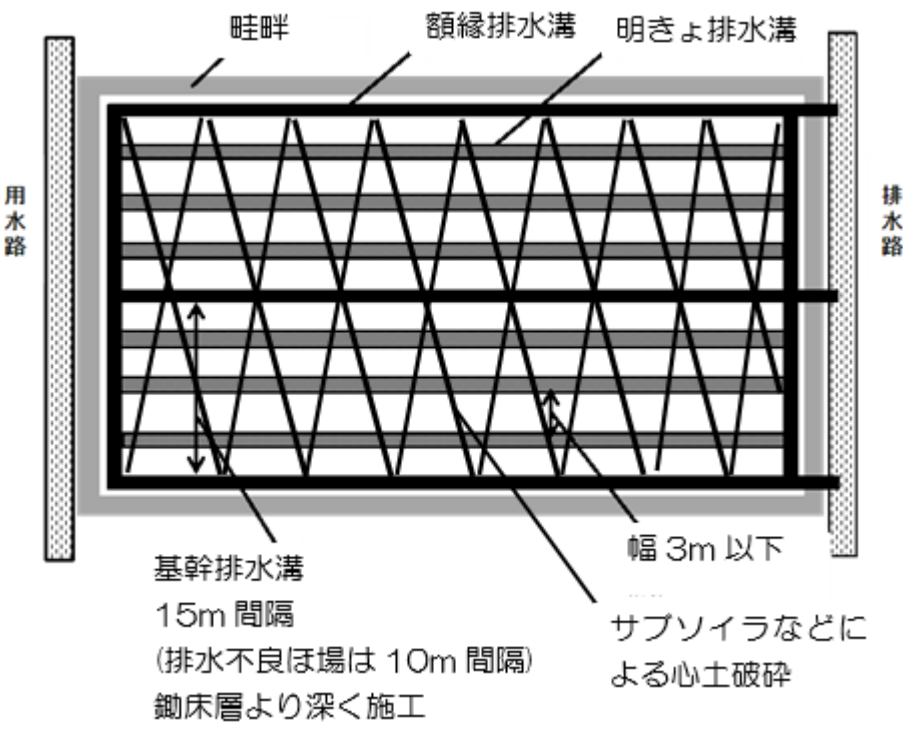


大麦栽培の作業の流れ※基肥－発体系

月旬	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月						
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中							
生育ステージ	播種期 出芽期 分けつ期 生育停滞期 幼穂形成期 止葉展開期 出穂期 成熟期																																	
主な作業	団地化の検討 ほ場準備 ※1日で実施 耕起、播種、施肥 除草剤散布① 排水溝の補修 除草剤散布② 排水溝の補修 排水溝の補修 消雪期追肥 除草剤散布③ 排水溝の補修 止葉展開期追肥 赤かび防除① 赤かび防除② 収穫・調整																																	
ねらい	排水対策 年内生育量の確保 穂数の確保 粒張り・蛋白含有率の向上 適期収穫																																	
作業ポイント	ほ場準備 施肥と播種 栽培管理 追肥 収穫																																	
	【排水対策】 ①地下排水 弾丸暗きょ ②表面排水 額縁排水溝の設置 ※麦は湿害に弱い！ 【酸度矯正】 土壌pH6.5～7.0 苦土石灰または土づくり資材で矯正							【播種時期】 10月10～20日 【播種量】 7kg/10a 【施肥】 基肥一発（播種時） BB大麦一発くんN35 40kg/10a							【種子消毒】 ベンレートTコート ※種子7kgに対して35g使用 【雑草防除】 ①土壌処理剤（播種後） ②土壌兼茎葉処理剤（生育期） ③茎葉処理剤（生育期） 【赤かび防除】 赤かび防除① 出穂後10日 赤かび防除② ①回目から7日後							【消雪期追肥】 生育量不足時に追肥 ねらい：穂数確保 【止葉展開期追肥】 窒素4kg/10a ※尿素 8kg/10a ねらい：粒張り向上							【成熟期】 茎葉、穂軸が黄化 【収穫期】 子実水分30%以下 （成熟期3日後）					

【排水対策のポイント】

- 排水溝、明渠、弾丸暗渠等の施工イメージ図



サイドリッチャーによるほ場内明渠の設置



トレンチャーによる額縁排水溝の設置